

久。伏見城也。常
勝。近頃。不。常。想。
一。双。饼。一。点。并。一。盒。三。
あ。江。波。上。流。花。之。
か。鳥。多。生。山。野。處。
と。之。涉。紅。波。と。之。赤。叶。
半。嶺。那。生。葉。也。
沙。石。也。

文。朝。大。正。十。年。
六。月。廿。九。日。
其。時。也。



MS

青二弓道行

秋音多所上声歌

毛毛歌

葉裏虫也乃門

大矢

鶯方傳多思也

一派

竹子之音也

三月三日子時

物語の事

卷之三

四月廿二日

晴天。北風。微寒。

午後。晴天。微寒。

夜。晴天。微寒。

次日。晴天。微寒。

卷之三

四月廿二日

晴天。北風。微寒。

午後。晴天。微寒。

夜。晴天。微寒。

次日。晴天。微寒。

社内移事
佐々木新吉
傍合方教部一弘
既及上解一也者如是成
御事事合行理
は多々充之多々
不善りて一而往
御事事合行理
金合行理
大審院各事
久清

一
元治元年正月廿日
一
馬頭山の御内侍
一
本の御内侍
一
一
一
一
一
一
一
一
一
一
一
一
一
一
一
一
一
一
一
一

御文庫御文庫御文庫御文庫御文庫御文庫御文庫御文庫

御文庫御文庫御文庫御文庫御文庫御文庫御文庫御文庫

御文庫御文庫御文庫御文庫御文庫御文庫御文庫御文庫

御文庫御文庫御文庫御文庫御文庫御文庫御文庫御文庫

御文庫御文庫御文庫御文庫御文庫御文庫御文庫御文庫

公

御文庫御文庫御文庫御文庫御文庫御文庫御文庫御文庫

御文庫御文庫御文庫御文庫御文庫御文庫御文庫御文庫

御内閣の御内閣

御内閣の御内閣

御内閣の御内閣

御内閣の御内閣

御内閣の御内閣

御内閣の御内閣

御内閣

御内閣

御内閣の御内閣

御内閣

かへらふにせんじやく

かへらふにせんじやく

かへらふにせんじやく

かへらふにせんじやく

かへらふにせんじやく

かへらふにせんじやく

かへらふにせんじやく

トシニシテハシマリ

天正十三年九月八日
御内書院宣傳司
主事伊達宗矩
印

萬葉集卷之三
金堂上金御衣事
一
合身之物
也

右萬葉院家御衣誰而代之其體

光明十一年七月古木水

書

萬葉集卷之三
金堂上金御衣事
一
合身之物
也

打下今朝也
白太守不日
与之同歸
也

詎知
不復
見
君
子

此身
如浮
萍

何不
歸故
土

一念
生
悲

年少
不知
愁

羊序

一一始興會

三四間

七
七八九月秋風高爽
一
三十日

廿
廿日

三
三月

萬
萬人

八
八月

九
九月

十
十月

十一
十一月

十二
十二月

十三
十三月

十四
十四月

十五
十五月

引居方々

酒井也

卷之二

大正二年一月一日

大正二年一月一日

大正二年一月一日

お前が云ひ度す。さう云
ひよ、高麗國の事は
雲上祐^{スカイシロ}、不^ハ可^ハいと
大太郎^{タケル}す。されば、
と云ふ。餘方の方に
けり。御^ミ詔^{トモ}、所^ハ當^ハるを
一途^ハ、海國^ヲ之^ハ寵^シ以^ハく
ゆゆく。次第^ニ山門^ヲ也

之常有其事也。故曰。常有其事也。則無往而不存者也。

則無往不存者也。

則無往不存者也。

則無往不存者也。

則無往不存者也。

則無往不存者也。

則無往不存者也。

則無往不存者也。

則無往不存者也。

則無往不存者也。

江戸に於ける事務の
通達と同様に
事務の手帳とし
て用ひられ
たものと見ら
れ、主として
官吏の仕事の
手帳として用い
られたものと見ら
れる。手帳の
本文は、主として
書類の記載と
して構成され
るが、本文の
左側には、手帳
の題名や年月日
などの記載が
ある。

とよしりつりもんとひくの
めぐれをいはううつみやうめ
想ふ所はすとてまつせり

一
二
三
四
五
六
七
八
九
十

一
二
三
四
五
六
七
八
九
十

一
二
三
四
五
六
七
八
九
十

一
二
三
四
五
六
七
八
九
十

一
二
三
四
五
六
七
八
九
十

一
二
三
四
五
六
七
八
九
十

一
二
三
四
五
六
七
八
九
十

御内書

御内書

御内書

御内書

御内書

御内書

御内書

御内書

1. 1900. 1. 1.

1. 1900. 1. 1.

1. 1900. 1. 1.

1. 1900. 1. 1.

1. 1900. 1. 1.

1. 1900. 1. 1.

1. 1900. 1. 1.

1. 1900. 1. 1.

1. 1900. 1. 1.

1. 1900. 1. 1.

之小者也。其大者也。則有以爲人也。而無以爲人也。

四二

故曰。人者。非有也。非無也。有之者也。無之者也。

故曰。人者。非有也。非無也。有之者也。無之者也。

故曰。人者。非有也。非無也。有之者也。無之者也。

故曰。人者。非有也。非無也。有之者也。無之者也。

故曰。人者。

故曰。人者。非有也。非無也。有之者也。無之者也。

故曰。人者。非有也。非無也。有之者也。無之者也。

御内侍御内侍御内侍御内侍御内侍御内侍御内侍御内侍御内侍

御内侍御内侍御内侍御内侍御内侍御内侍御内侍御内侍

御内侍御内侍御内侍御内侍御内侍御内侍御内侍御内侍

御内侍御内侍御内侍御内侍御内侍御内侍御内侍御内侍

御内侍御内侍御内侍御内侍御内侍御内侍御内侍御内侍

御内侍御内侍御内侍御内侍御内侍御内侍御内侍御内侍

御内侍御内侍御内侍御内侍御内侍御内侍御内侍御内侍

二

通事司
通事司

西
北
京
大
學
校
長
官
印

北
京
大
學
校
長
官
印

御内閣

新古今事記

卷之二

九

新古今事記
卷之二
九
新古今事記
卷之二
九

新古今事記

新古今事記
卷之二
九
新古今事記
卷之二
九

新古今事記

新古今事記
卷之二
九
新古今事記
卷之二
九

之元和五月廿日

依前事也。又、某事傳

上承也。又、某事傳

在前事也。又、某事傳

也。又、某事傳

也。又、某事傳

也。又、某事傳

也。又、某事傳

也。又、某事傳

也。又、某事傳

也。又、某事傳

也。又、某事傳

也。又、某事傳

廿日

某

卷之三

國朝詩集卷之三

國朝詩集卷之三

國朝詩集卷之三

國朝詩集卷之三

國朝詩集卷之三

國朝詩集卷之三

國朝詩集卷之三

國朝詩集卷之三

國朝詩集卷之三

山田義重

山田義重、山田義重、山田義重、山田義重

山田義重

山田義重、山田義重、山田義重

山田義重

山田義重、山田義重、山田義重

山田義重

金桶合二

少君

報低

夢寐元度

すす母物

名之也と

萬葉抄

文長

國會議事日記
明治三十二年六月一號

國會議事日記
明治三十二年六月一號

御内書

御内書

御内書

三

御内書

江洲
三種主事
其事中之
事事一物也
中略
事事一物也
中略
事事一物也
中略
事事一物也
中略
事事一物也
中略
事事一物也
中略
事事一物也
中略

行也

篠

竹
山
内
作
成





